

# 額田の 城下町

## 第39号

発行 額田城跡保存会  
令和2年8月24日



### 額田城跡保存会活動に参加して

活動前の私は、時々城跡を散歩しては、花壇の手入れや遊歩道の整備をしてくださっている方々の姿をお見かけしたり、農作業の合間に、一人で草刈りをされている原さんの姿を何度かお見かけして、有り難いなと思っていました。

二年ほど早めに退職して、入会のお誘いを受け、草取りのお手伝いでもさせていたごうと思いい、活動を始めて、早いものでもう八年目になりました。この道をお殿様やたくさんのご来客が通った様子を想像してみたり、そう言えば、城下町で、人がたくさん住んでいたからか、額田はお寺さん・建具屋さんが多かったし、お茶屋さんや、呉服屋さん・鍛冶屋さんなど、昔の賑わいを感じられるお店もあった。町並みを残せると良かったのになどと、思いを巡らせながら、保存会活動をしています。見学の方たちが、良い所ですねと言ってくださるのが励みです。

去年の九月の台風で、鈴木家の柵が折れてしまい、とても残念です。今では一部分しかなくなってしまいました。阿弥陀寺から続く土塁があり、子供のころ登って遊んだ事を覚えています。鈴木家住宅を見学した時に、引接寺との間に今も外堀が残っているのを伺い、昔は西側にもお堀があった事を思い出しました。引接寺の門の辺りが馬場であったことなども伺い、あちこちに今も残っている、額田城の痕跡を無くさず、更に調査・整備して残していただけたらと願っています。

檜山 智子

## 額田寺物語

物語第二号は前回の久慈川物語に続き、額田寺物語を執筆してみた。その前に日本の仏教を考えてみたい。

仏教とは釈迦により開かれた宗教。その目的は悟りを開いて、苦惱を捨て去り、ブツダになることにある。悟りを開くと言ってもお釈迦様は相手の素質や境遇に合わせ説き分けるという方法を選んだ。一人一人が異なる言葉で教えを受けた。お釈迦様の時代には万人に共通な経典はなかった。お釈迦様の亡きあと弟子たちはお釈迦様の言われた言葉それぞれの解釈を書き残し、3000という膨大な経典ができたといっている。やがて、仏教は数多くの経典とともに、中国に伝わっていく。中国は儒教の国であり、多くの学派があり、子弟の関係でなりたっていた。同じように仏教も師弟関係にあり、学派ができていった。これが宗派であった。

日本に仏教が伝えられたのは飛鳥時代であり、中国から朝鮮半島の百済を通じて伝来した。当時の仏教はこの百済仏教であり、ほかの宗派ま でなかったのである。やがて、奈良時代になると中国から六つの宗派が輸入される。これが南都六宗であり、法相宗、華嚴宗、律宗、三論宗、俱舍宗、成実宗である。この時代は宗教というより経典解釈の学問の域を出なかった。平安時代になるとただ学問では飽き足らず、日本流のアレンジを加え、衆生を救おうという二人の僧が現れた。それが最澄と空海である。

最澄と空海は遣唐使の一員として中国へ渡り、当時、中国で流行していた密教の要素を取り入れ、日本に持ち込み、日本オリジナルの最澄が八〇六年に天台宗、空海が八一六年に真言宗を開いた。ここから仏教界は急速に加速し、平安時代から鎌倉時代に新しい宗派が誕生した。一一七一年良忍が融通念仏宗、一一七五年法然が浄土宗、そして、鎌倉時代に入り、一一九一年に栄西が臨済宗を、一二二四年、法然の弟子親鸞が浄土真宗をひらく。一二二七年には禅宗の臨済宗に続き、道元は曹洞宗を開く。一二五三年に日蓮が日蓮宗を、一二七四年に一遍が時宗を相次

いで開いていく。江戸時代、隠元により一六六一年に黄檗宗が開かれ、日本仏教の代表的な三宗派が出そろったことになる。ここで、江戸幕府は民衆に大きな影響を与える仏教教団を統制する本末制度を導入した。小さな寺院を末寺、大きな寺院を本山とし、全国にある末寺を本山の基に管理させ、勝手に寺を新たに建立することを禁止した。加えて、「檀家制度」を実施し、庶民はいずれかの寺に所属することになり、戸籍の原形のようなものが完成した。この管理のもと戦前まで新しい宗派を興すことは禁止され、一三宗五六派が確立された。

ところで、奈良東大寺の大仏に代表される仏像、右手は5本の指を開いて前に向ける「施無畏の印」を結び、人々のあらゆる恐れを取り払うという意味で、左手は同じような形で膝の上に乗せる「与願印」と言い、人々の願いをかなえる印だという。仏教の世界には五戒という5つの戒めがある。生物を殺してはならない。盗んではならない。色欲におぼれてはならない、うそをついてはならない、酒ののんではならない5つである。

◇ これらを前提として額田の寺について述べてみたい。

光圀の寺社改革前、額田には50を超える寺が存在した。那珂町史から見るとその数が半端でない。真言宗だけでも23の寺があった。光圀更には斉昭の寺社改革そして明治三年の統廃合により、現在の5つにしぼられたが世帯数千数百からすると、それでも多いといえる。現在は真言宗の毘盧遮那寺、浄土宗の引接寺、曹洞宗の麟勝院、浄土真宗の阿弥陀寺、光照寺とある。額田に居住する家で常陸太田市の枕石寺や浄光寺、神道の氏子を除いて千百に対して五つの寺である。菅谷、後台の浄土宗の寺が明治三年廃寺となり、引接寺に統合されたこと、阿弥陀寺が額田城主の小野崎縦通により城里(旧桂村)から移された経緯からその家臣団が杉村、横堀村に居住して阿弥陀寺門徒となった経緯がある。加えて、河合、土木内の真言宗鎌田院が廃寺となり、毘盧遮那寺に統合されたことにより、常陸太田の門徒が額田の檀家となっている。前号で曾祖父が岩船神社の宮司をしていたと書いたが鎌田院の僧侶から神官に替えられたという。先祖の墓石に大僧都か



ら禰宜と変わっている。全国的にもこんなことは行われ、薬師寺という姓が薬師神と変わった人もいるくらいである。  
この五つの寺にどんな先人が眠っているか、次回は寺ごとに特徴とともに紹介してみたい。

小田部 一彦

参考文献

- 那珂町史
- 金砂大祭礼【志田諱一著】
- 常陽芸文額田藩【仲田昭一著】
- 豊後の二孝女【野上平著】
- 額田陥落の記【仲田昭一解説】
- 沼田徳重小伝【関真幸著】
- 日乗上人日記【久昌寺編】
- 水戸幕末風雲録【明治記念館】
- 中世那珂台地の領主【那珂市史編纂委員会】



特別展 佐竹氏

・八〇〇年の歴史と文化・を見学して

先日、茨城県立歴史館に、特別展「佐竹氏・八〇〇年の歴史と文化」を見に行ってきました。

平安時代から江戸時代まで全体の歴史の流れの中で、佐竹氏がどのような役割を担い、どのように活躍したのか、よく分かる展示内容でした。清和源氏の流れなんですね。西から流れてきたんだ。

実は、今まで仲田先生の講演会その他で、我が額田城小野崎氏に関する情報は、色々見聞きしているのですが、私の頭の中では、どうも歴史の流れ的な部分で断片的で整理出来ていない。そこで、今回の佐竹氏展で、佐竹氏と時代の流れを読み解くことで、自分の頭の中が整理出来るのではないかと期待して行ったのでした。正解でした。

佐竹氏は土着豪族とは違って、外から入ってきた「よそ者」だった。この常陸の地で勢力を伸ばすには、元々の土着豪族と戦わなければならなかった。そして、時代は戦国時代に……。獲りつ獲られつ領地合戦の中で、小野崎氏も当然その中に巻き込まれて行って……。小野崎氏の生きた時代、額田城の時代はそんな時代だったんだね。展示の中にも佐竹氏と小野崎氏とのやり取りの記述がありました。

今回の展示見学で、自分の中の歴史年表に額田城を書き加えて整理することが出来たように思います。有意義な時間を頂きました。

宮崎 昇一

【今年度の活動計画（管理作業）】

令和2年	
5月30日	8:00～12:00
6月6・27日	8:00～12:00
7月4・11日	8:00～12:00
8月1日	8:00～12:00
9月26日	8:00～12:00
10月3・24日	8:00～12:00
11月14・28日	8:00～12:00
12月5日	8:00～12:00
令和3年	
2月27日	8:00～12:00
3月27日	8:00～12:00

【今年度の活動計画（ボランティア）】

令和2年		
5月16日	第3土曜日	8:00～10:00
6月20日	第3土曜日	8:00～10:00
7月18日	第3土曜日	8:00～10:00
8月22日	第3土曜日	8:00～10:00
9月19日	第3土曜日	8:00～10:00
10月17日	第3土曜日	8:00～10:00
11月21日	第3土曜日	9:00～11:00
12月19日	第3土曜日	9:00～11:00
令和3年		
3月13日	第2土曜日	9:00～11:00

作業内容は、二の丸花畑の手入れ、芝生内外の除草、遊歩道の清掃や安全点検などです。この他に、月2回程の管理作業があります。

【募集しています】

☆ボランティア作業参加者を募集☆

- 活動日時：毎月第3土曜日（上記参照）  
午前8時～10時（2時間）
- 集合場所：額田地区交流センター
- 募集対象：小学生、中学生、高校生、  
大・短・専門学生、社会人
- 申し込み先：額田城跡保存会 武藤まで

☎ 090-3147-1298



編集後記

表紙写真は城跡管理作業で、訪れる方が歩きやすくなるように、遊歩道に木材チップを敷き詰めているようすです。

発行が予定より大幅に遅れてしまいました。寄稿していただいた方々には大変申し訳なく思っております。次号はこのようなことになるまいよう頑張ります。

さて、歴史は人生の道標。歴史を学ぶことは、翻って、これからの人生をいかに生きるべきかを考えることかと思えます。コロナ禍で新しい生活様式が問われている今、先人たちの生きた記録の中にも、そのヒントがあるかもしれません。この機会にぜひ、額田城跡の、自然に囲まれた静かな空間を訪れてみてください。生きるためのヒント、見つかるかもしれませんよ。

宮崎 記